

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 建昌福祉会
施設名	幼保連携型認定こども園 ひまわりこども園
報告者（役職）	福富 智章（園長）
住所・連絡先	鹿児島県姶良市西姶良1丁目39-30
	☎ 0995-55-1371
	E-mail himawari0@vesta.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

心も身体も育てる園庭！誰もがふれあえる、ずっと居たくなる場所を目指して

○主な助成備品

テーブル・ベンチ・平均台・築山・芝

1. 保育計画策定の目的

当園は平成29年4月より開園し、地区に初めてできた未就学児の通園施設です。立地としては高台にあり景色もよく、住宅地ながら自然も感じることも出来る施設になっております。

私たちは、乳幼児期の教育・保育は「生きる力の基礎を育てる」ものだと考えており、その中で重要になる施設の環境面は、様々な工夫を行い教育と保育を提供しています。しかし、園庭に関しては大型遊具等の設置を最小限にとどめ、広いスペースを確保することで、思い切り体を動かすことを目的とした環境設定でしたが、実際に子どもが過ごしている姿を見ていると「もっと、色々な仕掛けがあり、子どもたちが様々な体験が出来る園庭環境を考えなければいけないのではないか？」と考えるようになりました。

そこで、園庭に「五感を刺激する」環境設定を計画し準備することで、今まで以上に子ども達の「生きる力の基礎を育てる」ことを目的としました。

＜期待される効果＞

- ・様々な感触（土・芝・木・草花等）を味わうことで、触覚・嗅覚を主とする五感の成長を促す。
- ・木登りや築山での上り下りを通して、体幹を育てながら各年齢に応じた身体的発達を促す。
- ・色々な年齢の人たちとの交流を図ることができ、コミュニケーション力、協調性などの社会的能力を養う。

2. 具体的な実施内容

当園の特色的取り組みも含めながら報告したいと思います。

＜実践研究＞

当法人では各施設がテーマを設定し、1年間かけて実践研究を行っています。今年度は、2歳児クラス11名が中心になり「扁平足改善～素足での様々な遊びを通して～」をテーマに実践を取り組みました。

- ・芝生：のびのびとかけっこをしたり、芝生の上を寝転がり感触を楽しんでいました。



- ・砂：穴を掘り、砂の感触を感じていました。ままごと遊びや見立て遊び等を楽しんでいました。



- ・泥：砂の感触とは違い、汚れることを嫌がる子どももいました。素足での活動数を重ねるごとに、顔や体につけることができました。



- ・平均台：素足で平均台の上を歩き、指先に力を入れ、バランス感覚をとる遊びです。月齢もあり保育者が援助する場面もありました。



- ・築山：足裏に力を入れて登ります。平均台同様、月齢差によって手をついて登る子どももいましたが、活動自体は楽しんで行っていました。



＜自然の時間（理科活動）＞

3・4・5歳児対象に実施している自然の時間でも、園庭での活動を多く取り入れました。自然の時間は、子ども達の「なんでだろう？」という興味、関心をこれまで以上に引き出せるようにと考え実施している活動です。専門の先生に自然科学を中心に組み立ててもらい、取り組んでいます。

・土の部分（畑）

春、夏、秋、冬とそれぞれ季節に合った野菜、植物を植えて子ども達と一緒に育てます。土に触れることで五感を刺激し、また、土の中の雑菌に触れることで、抵抗力を養うこともできます。さらに、素手で触ることで手を鍛え、脳も刺激します。



・樹木

季節を感じることでできる樹木や実のなる樹木を活用して子どもの好奇心を育てます。びわや柑橘類の収穫を通して「なぜ実がなるのか？」に触れ、実の成り立ちを考えることが出来ました。また、柑橘類にしか卵を産まない蝶の成長を目の前で、段階を追って観察することも出来ました。



＜通常の保育活動から＞

特色的取り組み以外の、通常保育でも園庭での遊びを多く取り入れました。特に0，1，2歳児の小さな子どもたちも園庭に出る機会が増え、裸足での遊びも多くなりました。また、隣接しているグループホームの高齢者も利用しやすくなったことで、園児とのふれあう時間が多くなりました。下の写真は、グループホームの利用者と触れ合っている場面です。子どもたちも高齢者の方々も表情が明るく本当に楽しんでいました。



裸足での感触を嫌がる子どもがいましたが、まずは、靴を履いたまま、手の感触から始めたり、洋服のまま座る、寝転ぶというように、段階を経て少しずつ慣れるように工夫しました。



登園後の活動を戸外遊び中心に切り替えました。保育についても、保育者が何かを設定するのではなく、子どもたちが主体的に遊びを展開できるように意識し、定期的に平均台やテーブル、椅子を動かす等、自分たちで場所、空間を考えて遊びが出来るように準備しました。



3. その成果と評価

ただ広い園庭があるだけではなく、子どもの成長を促すための仕掛け（芝、樹木、平均台、テーブル、椅子）を用意できたことは非常に大きいです。何よりも、保育者自身が園庭を保育活動で利用する頻度が多くなりました。とてもいい傾向です。また、園庭環境が変わったことで、子どもたち自身が自分で遊びを展開する姿（主体的な遊び方）が増えました。場所・空間を見つけることも、とても上手になっているように感じます。

実践研究として行った扁平足の改善については、改善幅にバラつきはありましたが、どの子どもも6月より幅が狭くなっています。土踏まずの形成は5歳～8歳にかけてできる

ものと言われており、3歳ごろから少しずつ形成されていくため、これからの活動内容も重要になっていくと思いますが、素足での戸外活動を増やし、芝生や土などの感触・感覚を味わう機会を設けたことが、扁平足改善につながったと思います。

土踏まずの最深彎曲部の長さ(cm)

月 名前	6月	8月	10月	12月
Kちゃん	0.2	0.5	1.1	1.5
Rくん	-0.8	0.7	-0.3	1.1
Rくん	-0.7	0.1	0.4	1.3
Hちゃん	-0.5	0.2	0.4	0.8
Kくん	-0.3	0.4	0.5	0.9
Rちゃん	-0.4	-0.3	0.4	0.5
Kくん	-0.7	0.9	-0.4	0.8
Mちゃん	0.1	0.3	-1.3	0.7
Sちゃん	-1.0	0	0.8	1.0
Iちゃん	-1.0	-0.5	-1.0	-0.8
Rちゃん	0.5	0.7	0.7	1.4

※土踏まずの測定方法

西澤昭氏の議論をもとに、内側線と外側線との交点をかかとの後方で求め、その点と第2指と直線で結んだ線(Hライン)に対して、土踏まずの最深彎曲部とHラインの幅を測定しました。



自然の時間での経験については、子ども自身が自然の事象に興味を示す場面が多くなりました。特に、生き物に対する興味に関しては、毎日のように虫かごやままごと用のバケツを持ち、生き物探しをしていました。見つけた時の子ども達の目は達成感に満ち溢れているように感じます。3歳未満の子ども達の裸足活動も工夫の結果からか、今では子ども達から裸足での遊びを楽しんでおり、良い感覚経験をしていると思います。

4. 今後の課題と展望

「五感を刺激する」環境設定を計画し準備するという考えのもと、取り組んできました。一定の効果はあったように感じますが、データとしてあまり多く示すことはできませんでした。今後は、子どもの主体性や自主性、興味関心の成長についてデータを取り検証していけると、より具体的な効果を理解することが出来ると思います。

また、テーマにある「誰もがふれあえる園庭」については、まだまだ納得のできる現状ではありません。定期的なグループホームの利用者とのふれあいは行ってきましたが、地域の方々との園での交流はまだ実施できていない状況です。どのように地域との関りを増やしていけるか、十分検討していきたいと思います。

今回、助成していただき園庭整備を行ったことで、目指す教育保育内容の実現の一步を踏み出すことが出来ました。これからも、子ども達の「生きる力の基礎を育てる」ことが出来るよう、取り組んでいきたいと思っています。